

和田昌弘

小さい頃、私は同居していた祖父の事があまり好きではなかった。私の実家は、昔ながらの米農家で、祖父には絶対的な父権があり、祖父の言う事に対して家族の誰も逆らえなかったからだ。自分勝手に振る舞い、家族の皆が祖父の言う事に振り回され、それに対して誰も何も言えない状況に、幼い私には彼の事が、恐怖の独裁者に写っていたのだ。そして、その独裁者の鉄槌は時に幼い私にも降り掛かってくる事があった。例えば、私の人生において最初の記憶の一つとして残っている出来事も、いたずらをして（当時はいたずらという意識すら無かった）鉄の頑丈なベンチで臀部を抓られた事に対する、祖父への恐怖心である。

そんな祖父も10年程前に他界した。祖父が亡くなる数年前から、私の祖父に対する恐怖心は薄れ、それよりもカメラや旅行、オーディオなどに対する祖父の趣味に対して、自分とも何かと共通する興味を感じていた。実際私が二十歳の頃、年老いた祖父はもうピントが合わせられなくなったと言って、CANONの一眼レフカメラを譲ってくれたことがあった。家族の中で最も趣味の近い人物であった事は間違いなかった。

祖父の死後、私は度々祖父が使っていた部屋を訪れ、宝探しをするように祖父の愛用品や、コレクションを物色していた。カメラやオーディオ、何処かで拾って来た石、ネクタイや時計、それらと共に莫大な量の旅や家族の写真が納められたアルバム。几帳面だった祖父は、自分の撮った写真の一枚一枚をアルバムの中に丁寧に保存し、何処で何年に撮影したのかを書き示して棚の中に綺麗に整理していた。祖父の青年の頃から私や兄達の幼かった頃まで、また旅先のカンボジア、ミャンマー、トルコ、中国、インド、アラスカやメキシコなどの写真。ネガと共に、訪れた先の紙幣やお箸ケース、博物館の半券までもがファイリングされていた。

二十歳を過ぎてから私も旅をする機会が多くなった。生前祖父と旅の話をした記憶は無いが、部屋に残されたアルバムをひっくり返してみると、祖父の旅先には、私が旅した事のある土地も何カ所か含まれていた。

2004年 ロンドン大学ゴールドスミス校修了

2010年 グループ展 構造的全体性 アーツハウス,ミートマーケット メルボルン
グループ展 5th Dimension 旧フランス大使館 東京

2008年 和田昌弘展 CUL-PORT 高知
L.D.K. アートセンターオンゴーイング 東京
第3回広州トリエンナーレ 広州美術館 広州
グループ展 家 日本ホームズモデルハウス 東京

2007年 グループ展 16時間ミュージアム アートイニシアティブトウキョウ 東京

E-mail:wadamasa@mac.com

旅先や日常、祖父は35mmのフィルムカメラで記録していたが、私は旅をする時には必ずビデオカメラを持って行き、写真を撮影するよりも多くの時間、訪れた先をビデオテープに記録する行為に費やしている。特にバスや電車、タクシー、船などの乗り物から流れる現地の風景を長時間の長回しで記録撮影した映像が、ビデオテープの半分以上の時間を占めている。

祖父の写真から想像される、私も祖父も見たであろう流れ行く風景。決して交わる事の無かった思い出の会話を、記録した映像から紡いでみる。流れ行く景色は祖父が訪れたときとは変化したのであろうか。

中国南部にある桂林という世界的観光名所。

漓江という川のほとりに奇怪な形の山々が連なり、その景色が連続して流れて行く。まさに中国的山水画の景色であり、祖父が訪れていた場所で、私も訪れた事のある土地の一つ。観光客は船の上から一面に広がる奇怪な形の山の連続を鑑賞しながら漓江を下るツアーで有名な場所である。その場所で祖父が撮影した風景写真の数々と私の撮影した連続して流れ行く奇妙な山の数々。恐らく祖父が撮影したであろう山々も私のビデオに収められているはずである。それが何処の山なのか、連続した奇峰はもはや一つ一つの個性は打ち消されてしまう。

祖父が見たであろう風景と、私が見たであろう風景を重ね合わせた。あの山を覗いた、という事ではなく、流れに身を置き、山の連なりをぼんやりと経験したという事。一つ一つを覚えるのではなく、全体のつらなりとして思い出す事。そして、その山は恐らくほとんど変化無く約30年の歳月を経て存在していたであろうこと。どれかが特別な訳ではなく、そこに連なり流れている事が特別なのである。

奇妙な山も幾つも連なると、一つの価値というものは薄れて行く。それが当たり前の風景となって行く。奇妙奇天烈な山々の連なり。

祖父が写した奇岩の数々、私の映した奇岩の数々。約30年の歳月を経て風景は少しでも変わっているのではあろうか。しかしそれはあまり重要ではない。

山本篤

まったく関係のないと思われる点と点が、思考の跳躍によって結び付けられる瞬間、そしてそれを信じること。

少なくとも私が作品のアイデアを出すときには上記のような跳躍が大きな意味を持つように考えています。

そして、今回の作品では、「数学・物理・宇宙」というテーマの付近を行ったり来たり、漠然と思ひ浮かべつつ、ひとつの創造的な「跳躍」のイメージを、まさに跳躍によって映像という形にしてみました。

私にこの映像の意味を問われても、はっきりとは答える自信がありません。それは、私にとって良い作品とは、自分すらも何度も解釈に挑戦できる、登り方が自由な山のようなものだからです。

自分のコントロール下にあるものではなく、跳躍によって自分の無意識下にある可能性を引き出すこと。または意識を越えた何かに手を届かすこと。そしてそれを自分も楽しむことができること、またはそれに自分なりに何かの意味を見出すこと。

2002年 多摩美術大学卒業

2010年 グループ展 5th Dimension 旧フランス大使館 東京

2009年 命とエンタテイメント2 Art Center Ongoing 吉祥寺 東京

グループ展 OFFSITE2008 相田ちひろ/山本篤 横浜美術館 横浜 神奈川

2008年 soulfuldays 相模原市民ギャラリー/ 相模原 神奈川

横浜美術館withバザール 黄金町バザール/ 横浜 神奈川

Voin Pahoin : 高橋ビルをルームジャック! 黄金町バザール/ 横浜 神奈川

グループ展 空気遠近法・青梅 - U39 青梅織物工業共同組合敷地内,他 青梅 東京

グループ展 THE NEXT Gallery Stump Kamakura 鎌倉 神奈川

グループ展 メトロポリスで会いましょう Art Center Ongoing 吉祥寺 東京

グループ展 Leerraum [] Night The Rotunda Philadelphia USA

グループ展 Leerraum [] Night Monkey Town New York USA

2007年 LIFE AND ENTERTAINMENT petalfugal 青梅 東京

グループ展 mex Kunstlerhaus Dortmund ドルトムント ドイツ

グループ展 アレちごく 青梅織物工業共同組合敷地内 青梅 東京

2006年 NIGHTWALKER petalfugal 青梅 東京

グループ展 風呂屋劇場 オノ神浴場 直島 香川

グループ展 Ongoing Vol.5 ヨコハマエクトプラズム BankART Studio NYK 横浜 神奈川

グループ展 百花繚乱 boiceplanning 相模原 神奈川

グループ展 EROSION petalfugal 青梅 東京

グループ展 DZUGUUN galerie DZGN Berlin Germany

2005年 グループ展 東京コンペ#2 丸の内ビルディング 東京

グループ展 Ongoing Vol.4 よんでみてみて BankART Studio NYK 横浜 神奈川

グループ展 群馬青年ビエンナーレ 群馬県立近代美術館 高崎 群馬

E-mail: info@atsushiyamamoto.com

ディヴィッド・プライス

私の作品は事物のギャップに関わっています。つまり彫刻とそれをフィルムや写真におさめたものの見た目、抽象的なイメージとタイトル、あるいは言葉と意味といったもの間に存在するギャップです。私は現代の潮流とは距離がある、例えばスーパー8や16ミリフィルム、最近ではオフセットリトグラフ印刷といったより古いメディアを用いることが好きです。ギャップを扱う目的は、作品がギャラリーに新たな空間、つまりミステリーや疑いの空間を生み出すからです。

私は博士課程の最終学年に在籍しており、アートと虚構の関係について、芸術作品の展示空間のための文脈として文章を書くことの可能性について探求しつつ、研究しています。

展示している作品"Construction"は、2006年に作成した初期の作品で、今回が初の展示となります。わたしが作品を作るうえで重要だと思う多くの要素—異なるメディア同士（彫刻とフィルム）が互いに作用、反作用しあう、シンプルなテクニック（ズームアップ、ストップモーション）を用いて、作品が描写していることがらよりもその現象そのものに意識を向けさせる、わずかな意味を有す主題がもたらすささやかな困惑—が複合しているものを表しています。わたしはこの作品を署名の一種、つまり私の考えるアートワークが果たすべきことのイメージ—非常にささやかな、でももやもやとした意味の霞の中にある、豊かで不備のあるもの—だと考えています。

2010年 マンチェスター大学博士課程在学

- 2010年 グループ展 Searching for the other physics IPMU 千葉
グループ展 Bardic Visions from Britain and The Americas サタデーナイトシネマ シカゴ
グループ展 KY123 (Sunrise) ギャラリーマイクロ デュッセルドルフ
グループ展 Through Apparatus NICC アントワープ
- 2009年 グループ展 Session_4_WORDS アム・ヌデン・ダ ロンドン
グループ展 工業製品の芸術的実践へのインパクト リバプール
グループ展 Session_2_FLAGS,アム・ヌデン・ダ ロンドン
グループ展 Reviving Isolation パーマネント・ギャラリー
- 2008年 Godalming Hundred,, ゴダルミン美術館, ゴダルミン
グループ展 Art of Sound, Sound of Artウィットワース・ギャラリー マンチェスター
グループ展 Modern Times オールイヤーラウンドクラブ マンチェスター
グループ展 Outside Context Problem スカリツァー通り ベルリン
- 2007年 グループ展 Transition ホルデン・ギャラリー マンチェスター
グループ展 School of Art ヘルシンキアカデミーオブファインアート フィンランド

E-mail:davidedwardprice@gmail.com

坪井あや

自分の”現実感”を謎ということにしています。主にテキストと日々撮影している画像をてがかりに考察を進めています。自分の限界を超えることを目的として、不定期に展示という形に構成し、公開してコメントを頂くという活動を「谷中ホテル」というプロジェクトとして行っています。

わたしは何かを見、何かを感じています。それがあはることは確信していますが明確ではありません。

カメラは遠近法という概念の延長線上に生じた道具ですので、そこに記録された像は限定されたものです。

記録はなにかを探るのに有効な1つの方法ですが、常に部分しか記録することはできません。

今回は、3次元の現実を2次元で記録し、その記録を3次元に組み立て直す、そのプロセスを経る中で明らかになってくる条件を得るべく、その何かに迫ることを試みました。

2004年 ロンドン芸術大学 チェルシー校卒業

2010年 グループ展 Searching for the other physics IPMU 千葉

2009年 Release #003, Sketch #002, 谷中ホテル, 東京

グループ展 谷中芸工展 東京

2008年 Study #004, Release #002, Sketch #001, 谷中ホテル 東京

2007年 Study #003, Release #001 谷中ホテル 東京

グループ展 谷中芸工展 東京

2006年 Study #002, Study #001, 谷中ホテル 東京

形を記録すると, 上野御徒町駅 東京

グループ展 Ongoing vol.05 BankART 横浜

グループ展 谷中芸工展 東京

2005年 舞台と空間のワークショップ こまばアゴラ劇場 東京

グループ展 Ongoing vol.04 BankART 横浜

E-mail:info@unformable.com

プレスリリース

サイエンスラボでのアート展 -Searching for the Other Physics vol.02-

IPMUアーツソサエティは、宇宙の謎解明を目指すサイエンスラボIPMUにて、ディビッド・プライス、坪井あや、和田昌弘、山本篤による5つの映像を用いた作品を展示します。

厳密で専門性が高く、揺らぎない客観の楼閣としての印象が強いサイエンス。しかし実際IPMUには、見えないこと、わからないこと、もやもやとしたものと格闘し、そこに一時的にせよ、枠組みや式を与えようとする試みに明け暮れる姿があります。

もやもやとしたものを形にしてみる試み、それを別の枠組みで行っているのがアートともとらえられます。当然それらは宇宙・数・物理といった普遍性とどこかで通底してゆくことでしょう。

様々なもやもやを様々な手法で提示する5作品をもやもやとしているサイエンスラボにて多くの方にご高覧いただきたくこのたびの展示を企画いたしました。

この機会にぜひ東京大学柏キャンパスにてアートとサイエンスについて思いを巡らせてはいかがでしょうか。

作品鑑賞を通じ、アーティスト、研究者、観客の豊かなコミュニケーションが始まることでしょう。

【参加作家】

ディビッド・プライス、坪井あや、和田昌弘、山本篤

【IPMU】

東京大学数物連携宇宙研究機構(IPMU)は、文部科学省の世界トップレベル国際研究拠点として、2007年に発足。東京大学総長室に直属する。世界からトップレベルの数学者、理論物理学者、天文学者および実験物理学者を集め、宇宙の謎(暗黒物質や暗黒エネルギーなど)を解き明かすのが目標。

【IPMU アーツソサエティ】

IPMU教職員他有志による団体。2010年に発足。サイエンスとアーツの境界をめぐりさまざまな交流の発生を目指す。

【展覧会情報】

タイトル：サイエンスラボでのアート展 -Searching for the other physics vol.02-

会期・開館時間：2010年7月3日,4日,10日,11日
11:00-19:00 (最終日17:00)

会場：東京大学柏キャンパス 数物連携宇宙研究機構棟 1F 実験室A

〒277-8583 千葉県柏市柏の葉5-1-5

*公開は展示スペースのみとなります。

観覧料：料金無料

主催：IPMU アーツソサエティ

後援：IPMU

お問い合わせ：IPMUアーツソサエティ(代表:坪井あや)

tel: 04-7136-5981

mail: a-tsuboi@kj.u-tokyo.ac.jp

URL: <http://www.ipmu.jp/ja/sfop-2>

アクセス：つくばエクスプレス(TX)柏の葉キャンパス駅西口よりバス 03、04 番乗車 5 分。国立がんセンター下車目の前。JR 常磐線柏駅西口 2 番乗り場 44、01 番バス乗車 25 分。国立がんセンター下車。

